

2023年1月31日

2023年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

東証プライム・名証プレミア 証券コード：2053

ホームページ <https://www.chubushiryo.co.jp/>

お問い合わせ先 TEL: 052-204-3050 総務人事部 総務課

◇ 連結経営成績	3
◇ 連結財政状態	4
◇ 外部環境①	5
◇ 外部環境②	6
◇ 飼料セグメント 実績	7
◇ 飼料セグメント 実績 ①畜産飼料	8
◇ 飼料セグメント 実績 ①畜産飼料 (続き)	9
◇ 飼料セグメント 実績 ②水産飼料	10
◇ その他セグメント 実績	11
◇ 通期計画の進捗	12
◇ 参考資料① 特別損失について	14
◇ 参考資料② 温室効果ガス排出削減について	15
◇ 参考資料③ 株主還元	16
◇ 参考資料④ 用語集	17

連結経営成績

(単位：百万円)

	22.3期 3Q	23.3期 3Q	増 減
売上高	144,890	182,406	37,516
飼料	136,363	172,222	35,859
その他※1	8,527	10,183	1,656
営業利益	3,766	1,815	△ 1,951
経常利益	4,107	2,147	△ 1,960
セグメント利益※2	4,216	1,107	△ 3,109
飼料	3,875	639	△ 3,236
その他※1	594	703	108
調整額※3	△ 252	△ 235	17
四半期純利益	2,975	823	△ 2,151
設備投資額	1,892	2,771	878
減価償却費	2,267	2,224	△ 42

売上高

◇ 畜産飼料の販売価格上昇と販売量増加により増収

セグメント利益

◇ 畜産飼料は費用の大幅増加・貸倒引当金繰入額（特損）の計上により減益
 詳細は7ページ以降で説明

◇ 大幅な増益
 詳細は11ページで説明

※1.その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

2.セグメント利益：税金等調整前四半期純利益

3.調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

23.3期3Q 要約連結貸借対照表

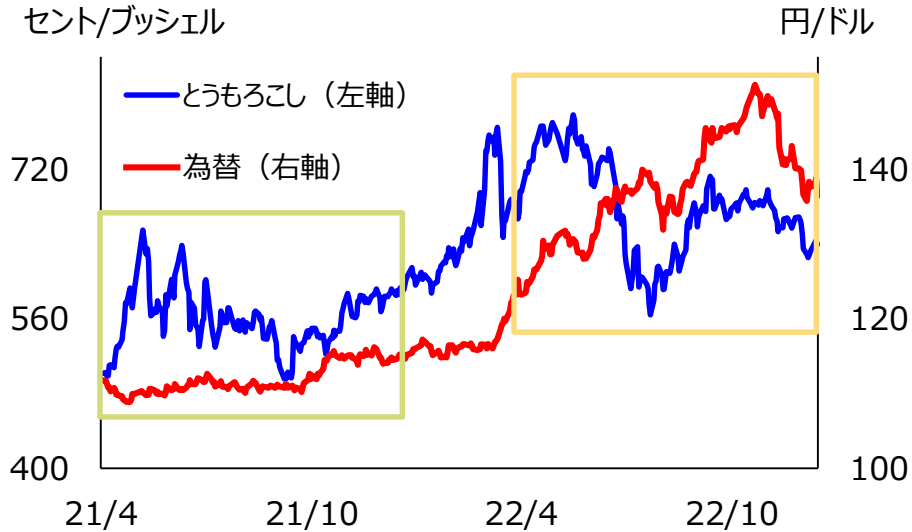
(単位：億円)

流動資産	798	(+222)	負債	503	(+244)
現預金	25	(△22)	仕入債務	234	(+88)
売上債権	558	(+194)	有利子負債	198	(+156)
たな卸資産	188	(+57)			
<p>流動比率 179.4% (△88.2pt)</p>			純資産	607	(△13)
固定資産	312	(+7)	株主資本	598	(△4)
有形	247	(+5)	その他包括利益	6	(△9)
無形	5	(△0)	非支配株主持分	2	(+0)
<p>総資産 1,111 (+230)</p>			<p>自己資本比率 54.5% (△15.9pt)</p>		
<p>総資産 1,111 (+230)</p>			<p>負債・純資産 1,111 (+230)</p>		

※ () 内の数値は、22.3期末との比較

外部環境①

とうもろこしシカゴ相場と為替相場の推移



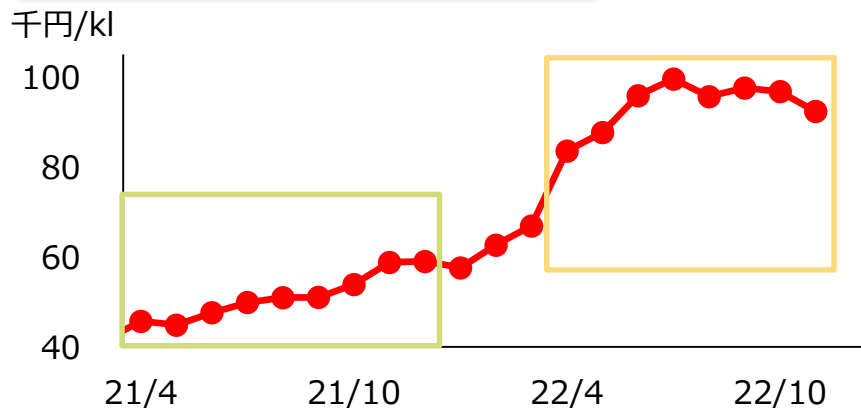
◇ とうもろこし

- 21年9月から右肩上がりで上昇
- 22年7月に下落したものの、すぐに反発し高値圏内で推移

◇ 為替

- 22年3月より急激かつ大幅な円安が進行し、22年10月に150円/ドルを記録
- 直近は円高に動いているが、前年度との比較では大幅に円安

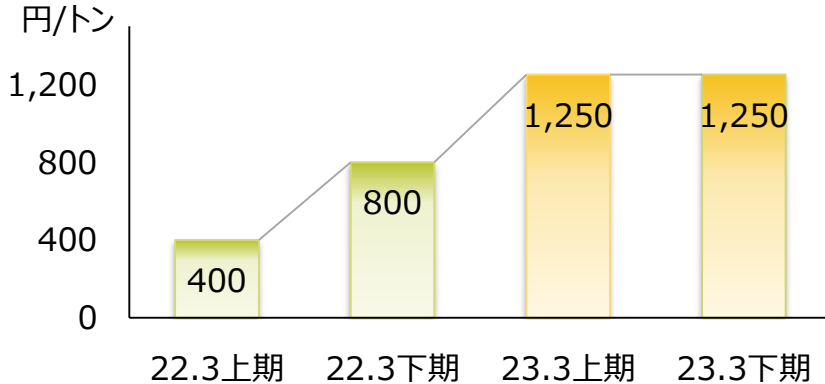
原油価格の推移



◇ 21年6月以降、ほぼ右肩上がりで推移

◇ 22年7月をピークに高止まり

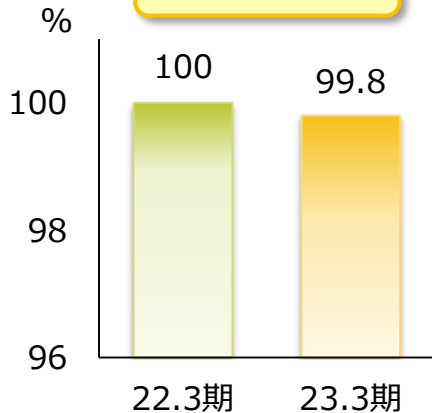
基金負担金単価の推移



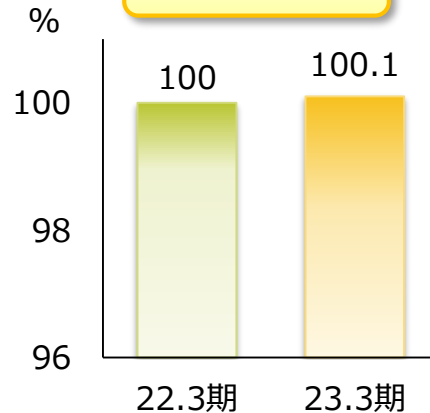
- ◇ 高額な補てん金の交付が続いたことから積立金単価は右肩上がり
- ◇ 23.3期の積立金単価は1,250円/トン

飼料の市場流通量

畜産飼料



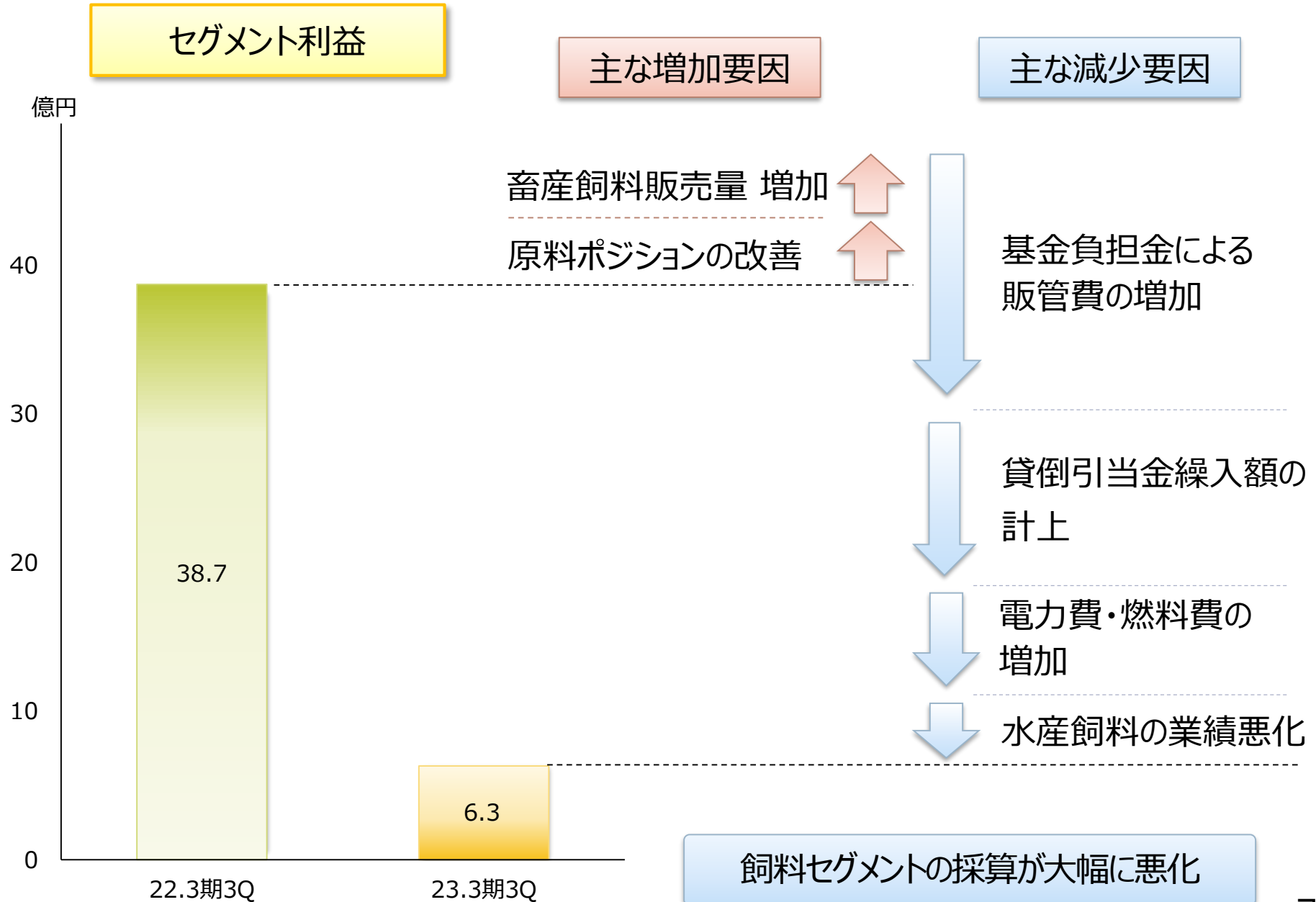
水産飼料











- ◇ 畜産飼料は前年同期とほぼ横ばい
 - 肉牛用飼料が好調も、ブロイラー用・養豚用飼料は前年を下回る
 - 上期けん引した採卵鶏用飼料も鳥インフルエンザの影響により横ばい
- ◇ 水産飼料は前年同期とほぼ横ばい
 - 値上げ前の製品引取が活発化し、上期に大幅な伸びを記録
 - 上期の反動により、秋以降の市場流通量は減少

※1. 畜産飼料は4-11月の市場流通量比較（前期比）
 ※2. 水産飼料は4-12月における日本養魚協会に属するメーカーの合計

飼料セグメント 実績





飼料セグメント 実績 ①畜産飼料

項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 21-22年シーズンに鳥インフルエンザの被害を受けた採卵農家の再開に伴うフォローを実施し、採卵鶏用飼料の拡販に成功 ◇ ブロイラー用飼料において、生産性向上に寄与する飼料の提案営業が奏功し、拡販に成功 	
差別化飼料比率		◇ 前期下期からの飼料価格高騰により、価格志向が強まった影響を受け、差別化飼料の汎用化が進展	
電力費・燃料費		◇ エネルギー価格高騰により、電力費・燃料費は大幅に増加	
基金負担金		◇ 23.3期より積立金単価は約1,250円/トンとなり15.7億円の負担増	

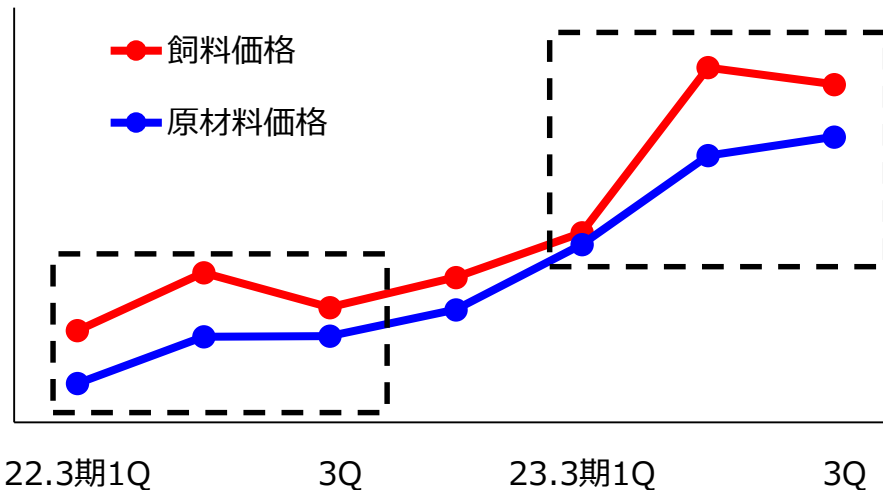
※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

飼料セグメント 実績 ①畜産飼料（続き）

項目	前年同期比	要因	計画との比較
原料ポジション		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 22.3期より僅かに改善 ○ 23.3期1Qは価格改定実施後の穀物相場上昇と急激な円安進行により、原料ポジションが大幅に悪化 ○ 2Qは大幅に改善 ○ 3Qは再び円安進行によりポジションは悪化。しかし、前期3Q比較では改善 	

※ 矢印の向きは利益への影響度を示す





原料ポジションの状況



※原料ポジションとは

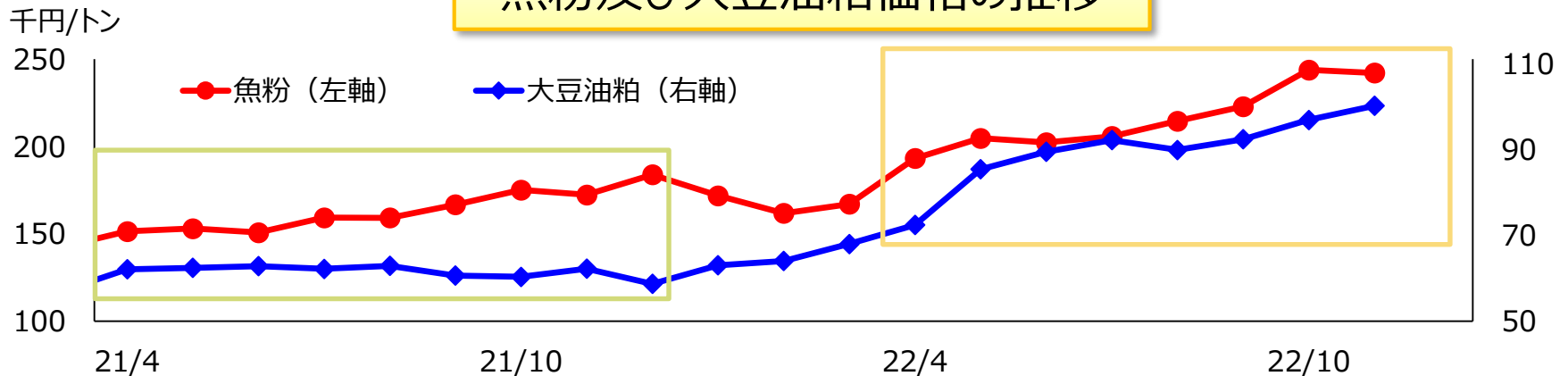
- ◇ 原材料価格は、穀物相場や為替、海上運賃等により変動
- 飼料価格は、四半期毎に改定
- ◇ 原材料価格と飼料価格の変動幅にギャップやタイムラグが発生
- ⇒ 原料ポジションが改善・悪化

飼料セグメント 実績 ②水産飼料

項目	前年同期比	要因	計画との比較
販売量		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 養殖業者による値上げ前の製品引き取りが活発化し、前年同期を上回る ◇ 養殖業者が在庫を抱えたことから、秋以降販売量は伸び悩む 	
利益率		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 主原料である魚粉及び魚粉の代替原料で利用する大豆油粕の価格が高騰 ◇ 競争激化により、原料価格の上昇分を販売価格へ転嫁できなかった <p>※ 水産飼料は定期的な価格改定がない</p>	

※ 矢印の向きは利益への影響度を示す

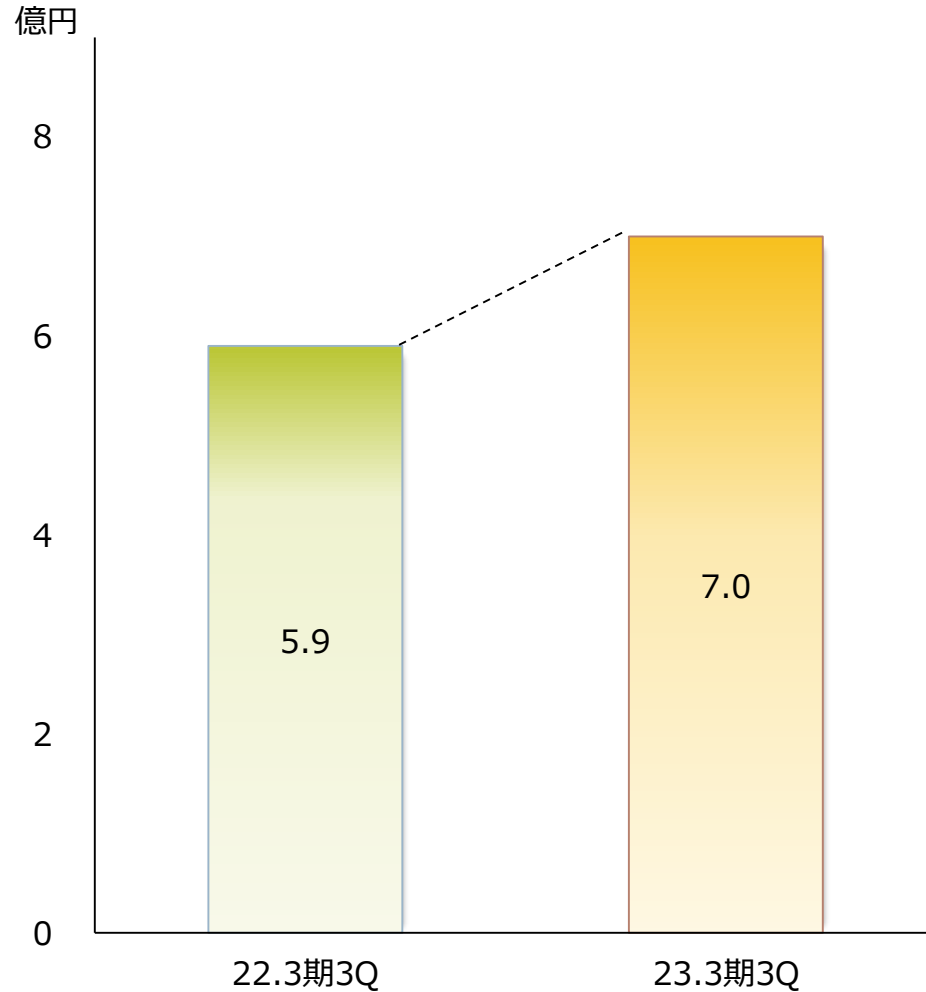
魚粉及び大豆油粕価格の推移



※ 財務省 貿易統計より

その他セグメント 実績

セグメント利益



※ その他セグメント: 鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等

各事業の状況

鶏卵販売

- ◇ 外食・業務用は伸び悩むも一定量を維持
- ◇ 量販店向けは、拡販に成功

肥料

- ◇ 環境負荷の少ない緩効性配合肥料の拡販等により前年同期を上回る

畜産用機器

- ◇ 販売台数は前年同期を上回る
- ◇ 資材価格の高騰や費用の増加により利益率は低下

その他セグメントの利益増加

(単位：百万円)

	22.3期 実績	23.3期 計画	23.3期 3Q	進捗率
売上高	193,392	212,000	182,406	86.0%
営業利益	4,138	2,200	1,815	82.5%
経常利益	4,564	2,600	2,147	82.6%
当期純利益	3,211	1,100	823	74.9%

通期計画の達成を目指す

参考資料

◇ 2022年9月9日、神明畜産(株)、(株)肉の神明及び共栄畜産(有)が民事再生手続開始の申立てを申請

- 直近まで収益改善を果たしている一方、
 余裕をもった手元資金の確保までは至らず
- 7月に神明畜産(株)の養豚場で豚熱が発生し、
 急速に資金繰りが悪化

◇ 負債総額 (9月1日時点、概数)

- ・ 神明畜産(株) 294億円
- ・ (株)肉の神明 208億円
- ・ 共栄畜産(有) 72億円

当社公表情報

◇ (株)肉の神明に対する債権額

- ・ 売掛債権 171百万円
- ・ 手形債権 1,025百万円
- ・ 貸付金 300百万円
- ・ 合計 1,496百万円

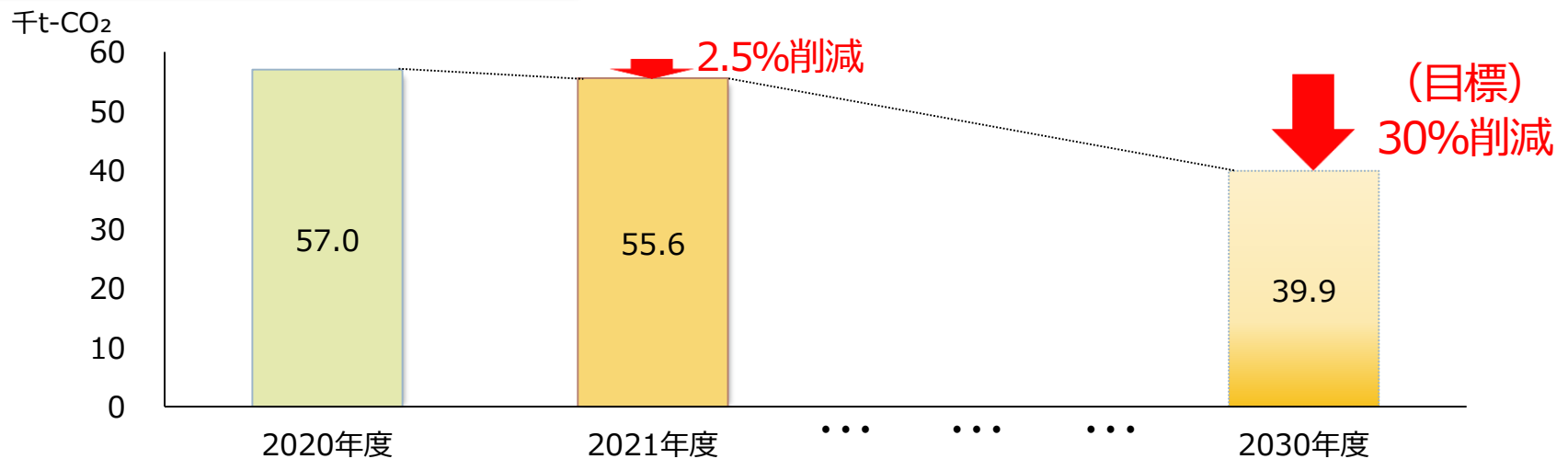
(22.3期連結純資産に対する割合2.4%)

◇ 左記債権のうち担保で保全されていない1,040百万円を貸倒引当金繰入額(特別損失)に計上

温室効果ガス排出削減の取組み

- ◇ 気候変動が重要な経営課題であるという認識のもと、温室効果ガスの削減について、指標と目標を設定
 - 指標：当社グループ（国内）の温室効果ガス排出量（Scope 1 + Scope 2）
 - 目標：2030年度に2020年度比30%削減
 - 省エネ設備や太陽光発電の導入、燃料転換、再エネ電力の調達等により、削減に取り組む
- ◇ 2022年10月、TCFD提言へ賛同表明

温室効果ガス排出量と削減率状況



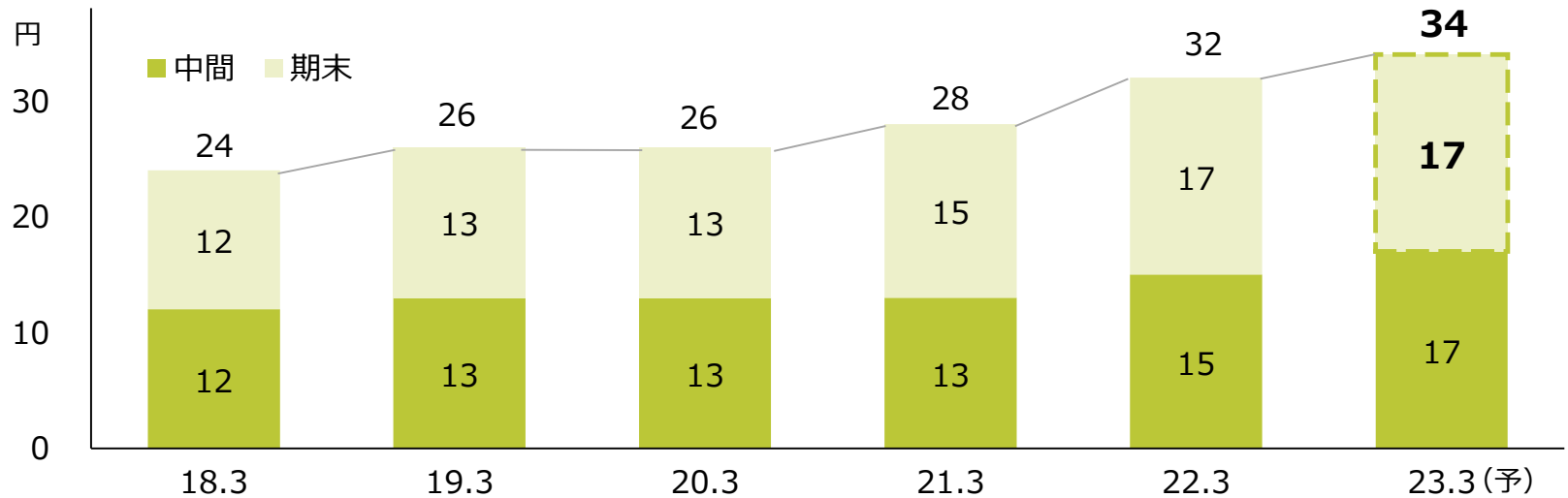
参考資料③ 株主還元

還元方針

- ◇ 安定配当を維持向上させる
- ◇ 将来の事業展開や経営環境の変化に対応するために必要な内部留保、業績及び純資産配当率（DOE）等を勘案し、配当を決定する
- ◇ 株価水準や財務状況等を勘案して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の改善と株主の皆様への還元を図る

1株当たり配当金の推移

◇ 23.3期の期末配当金は17円/株を予定



純資産配当率 (%)	1.5	1.5	1.4	1.5	1.6	1.6
配当金総額 (億円)	7.2	7.8	7.8	8.4	9.5	10.0
自己株式 取得額 (億円)	-	-	4.6	-	2.8	2.3

Q 差別化飼料とは？

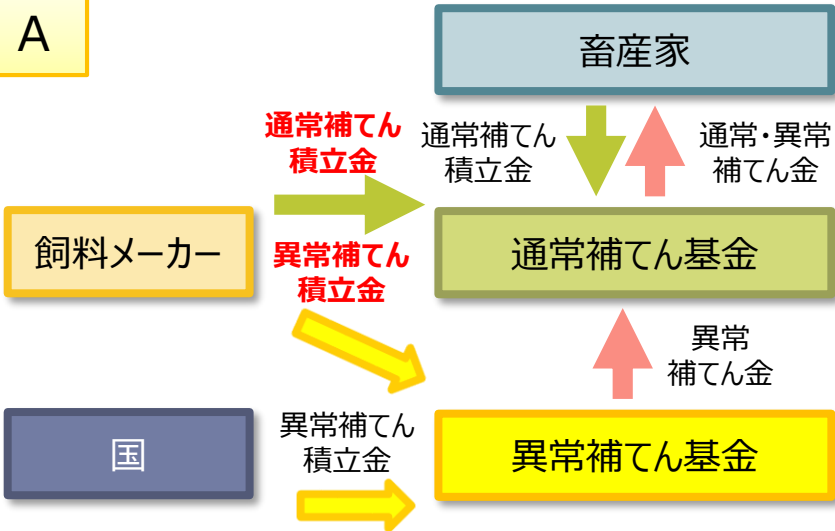
- A**
- ◇ お客様との取組みの中で開発
 - ◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

Q 畜産用機器（コンポ）とは？

- A**
- ◇ 微生物のチカラを活用した自然エネルギーで畜糞等を発酵する処理機
 - ◇ 畜糞、食品残渣、有機汚泥の肥料化・燃料化を実現



Q 基金負担金とは？



目的 ◇ 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

- 内容**
- ◇ 畜産家・飼料メーカー・国が積立
 - ◇ 一定のルールに基づき、畜産家へ補てん金を交付
 - ◇ 積立金は財源により増減



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。